

第11回平和首長会議 被爆80周年記念総会 報告書



令和7年（2025年）8月7日～10日
主催：平和首長会議、広島市、長崎市
開催都市：長崎市



～ 目 次 ～

はじめに	1
1. 第11回平和首長会議被爆80周年記念総会への参加について	2
2. 平和首長会議とは	3
3. 平和首長会議の取組	3
4. プログラム	
＜会議Ⅰ＞テーマ「核兵器のない世界の実現」	5
＜会議Ⅱ＞テーマ「安全で活力のある都市の実現」（分科会Ⅰ：環境問題）	7
＜平和祈念式典＞	7
＜会議Ⅲ＞テーマ「平和文化の振興」（討議グループ：若者の参画）	8
＜第13回平和首長会議国内加盟都市会議総会＞	8
＜会議Ⅳ＞テーマ「全体会議・ナガサキアピール採択」	9
別紙：資料1「パンフレット」（プログラム）	
別紙：資料2「第13回平和首長会議国内加盟都市会議総会」議事資料	
…「平和首長会議メンバーシップ納付金令和6年度決算について」	
…「核兵器廃絶に向けた取組の推進について（要請）」	
…「第13回平和首長会議国内加盟都市会議総会総括文書」	
別紙：資料3「役員の選任について」	
別紙：資料4「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン（PXビジョン） 及び平和首長会議行動計画（2025年～2029年）の概要図」	
別紙：資料5「ナガサキアピール」	

はじめに

8月7日から10日の4日間、長崎市で「第11回平和首長会議被爆80周年記念総会」が開催されました。戦後80年、そして芦屋市議会が非核平和都市宣言を決議してから40周年という大きな節目を迎えるにあたり、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを胸に刻むとともに、未来世代へと継承する決意のもと、今回の総会に参加しました。

総会では「核兵器のない世界を目指して～地球市民として描く平和な未来～」をテーマに、基調講演、被爆体験証言、様々な形式の会議が行われました。会議Ⅰ「核兵器のない世界の実現ー都市の役割」では、私もパネリストの一員として登壇し、核兵器使用のリスクが高まる中で、平和の文化を築く上での自治体の役割や取組について、国内外の有識者とともに議論を交わしました。

原爆が投下された8月9日には、平和祈念式典に参列しました。被爆者の証言や、こどもたちの平和を願った合唱に触れ、平和実現に向け一層努力する決意を新たにしました。

総会では、「核兵器廃絶に向けた日本政府に対する要請文」について審議・決定を行い、「第13回平和首長会議国内加盟都市会議総会総括文書」を採択したほか、「PXビジョン（持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン）」に基づく「平和首長会議行動計画（2025年ー2029年）」や「ナガサキアピール」について審議・決定を行い、採択しました。

世界では、いまこの瞬間も、罪のない市民が戦争の犠牲になっています。改めて、私たちはいまある平和が自然に与えられたものではないこと、簡単に守れるものではないことを認識しなければなりません。

世界の恒久平和を実現するため、平和首長会議では、PXビジョンに基づいた様々な取組・計画が進められています。今回採択した、PXビジョンの第2期の計画にあたる「平和首長会議行動計画（2025年ー2029年）」でも触れられている「若い世代を中心とした市民交流の促進」は、今ある平和を未来につなげていく上で、大変重要な取組です。

戦後80年。改めて、これまで市が長年積み上げてきた平和事業、そして平和首長会議の提唱する活動を通じて、幅広い世代の市民の方々が日常生活の中で平和について考え、行動することができる環境づくりに努めてまいります。

戦後80年を、戦後100年、150年にするためにも、一人ひとりの行動が問われています。芦屋市はこれからも、市民の皆さまとともに、平和の文化を築く歩みを進め、世界に発信し続けていきます。

令和7年（2025年）8月

芦屋市長 高島 峻輔

1. 第11回平和首長会議被爆80周年記念総会への参加について

(1) 期 間

令和7年（2025年）8月7日（木）～10日（日）

(2) 会 場

出島メッセ長崎 コンベンションホール ほか

(3) テーマ

核兵器のない世界を目指して ～地球市民として描く平和な未来～

(4) 出席者数

15か国139都市228人（うち首長78人）

※国内112都市183人（うち首長65人）

※海外14か国27都市45人（うち首長13人）

(5) プログラム（詳細は、5ページ以降を参照。）

8月7日（木）

- ・献花、落下中心地視察、原爆資料館及び追悼記念館視察
- ・歓迎レセプション

8月8日（金）

- ・開会式
- ・基調講演
- ・被爆体験証言
- ・会議Ⅰ テーマ「核兵器のない世界の実現」
- ・会議Ⅱ テーマ「安全で活力のある都市の実現」

8月9日（土）

- ・平和祈念式典
- ・会議Ⅲ テーマ「平和文化の振興（グループワーク）」
- ・第13回平和首長会議国内加盟都市会議総会

8月10日（日）

- ・会議Ⅳ テーマ「全体会議・ナガサキアピール採択」
- ・閉会式

2. 平和首長会議とは

昭和20年（1945年）8月、広島・長崎両市は原子爆弾により一瞬にして廃虚と化し、両市合わせて21万人を超える多くの人々の尊い命が奪われました。原子爆弾は、その投下から75年以上が経過した現在でも、放射線による後障害や精神的な苦しみを生き残った市民に残しています。被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という切なる思いを世界の人々に広げ、次の世代にも受け継いでいくために、広島・長崎両市は一貫して世界に核兵器の非人道性を訴え、その廃絶を求め続けてきました。

昭和57年（1982年）6月24日、荒木武 広島市長（当時）は、米国・ニューヨーク市の国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、世界の都市に国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶への道を切り開こうと呼び掛けました。また、広島・長崎両市は、この呼び掛けに賛同する都市（自治体）で構成する機構として、世界平和連帯都市市長会議（現・平和首長会議）を設立しました。平成3年（1991年）には、国連経済社会理事会のNGOに登録されています。

※平成13年（2001年）8月5日、「世界平和連帯都市市長会議」から「平和市長会議」に、平成25年（2013年）8月6日に「平和首長会議（へいわしゅちょうかいぎ）」に名称変更しました。

※芦屋市は、平成23年（2011年）に平和市長会議に加盟しました。

【加盟都市数（令和7年8月1日現在）】

166か国・地域

8,509都市（うち、国内 1,740都市）

エリア名	国・地域数	加盟都市数
アジア	39	3,371
オセアニア	9	137
アフリカ	49	443
ヨーロッパ	41	3,469
北アメリカ	3	346
ラテンアメリカ・カリブ海地域	25	743

3. 平和首長会議の取組

令和3年（2021年）より、「2020ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行動）」にかかわって、「PXビジョン（持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン）」及び「平和首長会議行動計画（2021年から2025年）」による取組を進めています。

また、今回の平和首長会議にて、第2期にあたる「平和首長会議行動計画（2025年－2029年）」を審議・採択しました。

(1) P Xビジョンについて

平和首長会議では、核兵器を廃絶し、人類の共存が持続可能となることにより、あらゆる人が永続的に平和を享受できる世界、すなわち「世界恒久平和」を実現するため、市民が連帯する都市を創造するとの観点から、「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョンー都市による軍縮と人類共通の安全保障に向けた平和構築ー」を2021年7月に策定しました。

目 標

A 核兵器のない世界の実現

B 安全で活力のある都市の実現

C 平和文化の振興

平和首長会議

ホームページへ→



※ 具体的な行動計画等については、別紙「資料4」をご覧ください。

※ その他の詳細は、平和首長会議のホームページをご覧ください。

<https://www.mayorsforpeace.org/ja/>

(上記のURLからアクセスするか、上記の二次元コードを読み込んでください。)

(2) 今後の取組

市は継続して、平和首長会議の提唱している下記の取組を進めてまいります。

ア 平和首長会議総会への参加

イ 平和首長会議国内加盟都市会議総会への参加

ウ 被爆アオギリ二世の植樹（平成29年5月に東館入口前に植樹）及び市民への周知

エ 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動

オ 「子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト」入賞作品の紹介

カ 平和首長会議原爆ポスター展の開催

4. プログラム

<会議Ⅰ>テーマ「核兵器のない世界の実現」

(1) 日時 8月8日(金) 13:15～15:05 出島メッセ長崎コンベンションホール

(2) 概要

ア パネリスト

- ・アレクサンダー・クメント オーストリア外務省軍縮・軍備管理不拡散局長・大使
- ・樋川 和子 長崎大学教授・核兵器廃絶研究副センター長
- ・高島 峻輔 芦屋市長(兵庫県)
- ・カーマイン・グリムショー マンチェスター市長(イギリス)
- ・カシット・ピロム 元タイ王国外務大臣、平和首長会議スペシャルアドバイザー

イ モデレーター 香川事務総長

ウ テーマ 核兵器のない世界の実現ー都市の役割

エ 趣旨

近年、核兵器使用のリスクの高まりなど、国際社会において平和を脅かす事象が一層顕在化している。こうした状況を踏まえ、都市レベルの取組を通じて、国際社会全体の持続的な平和構築にどのように貢献できるかを議論する。



(3) 市長の登壇

パネリストとして登壇し、国内外から参加したパネリストとともに議論を交わしました。

冒頭のプレゼンテーションでは、「対話」の重要性を次のように発信しました。

- 世界平和が遠く、民主主義が危機にある今こそ、平和の文化を築き、民主主義を守るために「対話」が必要なのだと。平和は民主主義の基盤であり、民主主義は平和の基盤です。そのために欠かせない視点が、「若者の参画」「市民同士の相互理解」であり、対話はその重要な要素だと、私は信じています。-

より多くの世代、特に若者を巻き込んだ平和施策についての質問を頂いた際には、市内の中学生とのエピソードを取り上げました。

- 就任直後、中学校をまわった際に、中学生の一人が私に話してくれたのが「校則を変えてほしい」ということでした。しかし私は彼らに、「校則を変えるのは私ではなく、学校で生活している君たちです。まずは、自分自身で行動を起こしてみてください。」と答えました。3か月後、同じ生徒から、「校則を自分たちで変えることができた」と報告を受けました。まさに、自分で自分たちのルールを変えることができたという得難い成功体験だったのではないのでしょうか。-

自分たちの発言は意味があるのだ、大切にされるのだという、成功体験が非常に大切であることを述べました。



会議終了後、パネリスト及びモデレーターとの記念撮影

<会議Ⅱ>テーマ「安全で活力のある都市の実現」(分科会Ⅰ：環境問題)

(1) 日時 8月8日(金) 15:30～17:30 出島メッセ長崎会議室101A

(2) 概要

ア ファシリテーター 昔 宣希(ソク・サニー) 長崎大学環境科学部 准教授

イ ラポルトゥール 香川平和首長会議事務総長

ウ テーマ 気候変動対応、脱炭素施策、環境に配慮した都市政策など各都市の取組を共有し、意見交換を行う。

エ 事例発表 安曇野市(長野県)、亀岡市(京都府)、マンチェスター市(英国)

(3) 市長の参加

自治体での環境施策について問われた際、ごみ焼却施設の建替時期が近づいたことで、この度神戸市と可燃ごみの広域処理に向けた協議を締結し、CO₂フリー電力増による二酸化炭素排出量の削減、建設コストの削減を図ることができたことを述べました。

<平和祈念式典>

(1) 日時 8月9日(土) 10:40～11:45 平和公園

(2) 概要

10:40 被爆者合唱
10:45 開式
10:46 原爆死没者名簿奉安
10:48 式辞
10:52 献水
10:54 献花
11:02 黙とう
11:03 長崎平和宣言
11:12 平和への誓い
11:19 児童合唱
11:24 来賓挨拶
11:40 合唱「千羽鶴」
11:45 閉式



<会議Ⅲ>テーマ「平和文化の振興」（討議グループ：若者の参画）

(1) 日時 8月9日（土）13：45～16：00 出島メッセ長崎コンベンションホール

(2) 概要

ア ファシリテーター 林田光弘 一般社団法人 Peace Education Lab Nagasaki
代表理事

イ テーマ 若者と共に平和に向けた取組を進める方法や、平和の取組における若者の役割などについて、各都市の取組を共有するとともに、意見交換を行う。

ウ 事例発表 多摩市（東京都）、大府市（愛知県）、グラノラズ市（スペイン）
クエルナバカ市（メキシコ）

(3) 市長の参加

若者の参画のために必要なことを問われた際、若者に主体性を持ってもらえるような環境づくり、そのためには、自分たちの行動が、生活のあらゆるところにつながっていると実感できる体験が大切であると述べました。

<第13回平和首長会議国内加盟都市会議総会>

(1) 日時 8月9日（土）16：20～18：00 出島メッセ長崎コンベンションホール

(2) 議事内容

ア （報告）平和首長会議メンバーシップ納付金令和6年度決算について

イ （報告）平和のバトンを未来へつなぐ長崎市の取組について

ウ （報告）平和を愛する都市・市民と手を携えた「平和文化」の涵養について

エ （報告）平和首長会議ユースの活動報告について

オ （議案1）核兵器廃絶に向けた日本政府に対する要請について

カ （議案2）会議総括文書の採択について

<会議Ⅳ>テーマ「全体会議・ナガサキアピール採択」

(1) 日時 8月10日(日) 9:30～11:20 出島メッセ長崎コンベンションホール

(2) 議事内容

ア 会議報告

イ 議案1「役員の選任について」

ウ 議案2「平和首長会議行動計画(2025年ー2029年)」について

エ ナガサキアピール採択